

地域おこし協力隊と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	地域おこし協力隊
日 時	平成 29 年 1 月 20 日（金）16 時 00 分から 17 時 45 分まで
場 所	庁議室
参加者	地域おこし協力隊 10 名（半田亜香里氏については、17 時 35 分頃から参加）
	市長、市長公室長、関係部長外

○ 市長あいさつ

地域おこし協力隊の皆さんにおいては、鹿屋で夢と希望を叶えるため日々頑張っていると聞いている。自分の描いた夢とは少し違うということもあるかと思うが、協力隊は決められたルールはなく、自分で道を切り拓くものだと思っている。鹿屋に縁がある方もいるが、まったく縁のない方もおり、まさに覚悟をもって来られたと思う。経験したことの無いことに新たにチャレンジするという気持ちは我々より優れたものを持っており、熱い思いを持ち続けて鹿屋の地で鹿屋市のためだけではなく自分の人生の一ページとして様々なことに挑戦してほしい。そして鹿屋の地にうまくあえば、いい仕事、いい夢舞台を見つけていただき実現してほしい。

市としても支援をしていくが、長いスパンで考えればいずれ自立をしていかないといけない厳しい側面もある。覚悟をもって来られた皆さんなので、素晴らしい決断を忘れることなく頑張してほしい。

今日は初めて顔を合わせる隊員もいると思う。隊員同士の和、絆を深め、また忌憚のない意見を聞かせていただきたい。悩みなどを隊員同士が共有することで、さらなる活躍の一助となればと思っている。

○ 地域おこし協力隊自己紹介

（意見交換）

市長： 「地域おこし協力隊」とは、私の思いでは皆さんの夢実現の舞台であり、市役所のために何かするのではなく、最終目標として鹿屋で起業するために、協力隊員の期間中にネットワークを広げ、その可能性をふくらませていけばいいと思う。市役所としては経験や知識、スキルをいただくが、市役所の手足となることはない。だからといって、野放しにするわけではない。市としてはある程度支援をする。ゲージの中で、買うつもりはないので、羽ばたいてほしい。

市長： 事前のアンケートでは、経済的なゆとり、収入についての満足度が不満という意見が多い。ただ、国の事業でやっているのだから、事前に条件が示されていると思う。給与は月額 175,000 円で、そこからいろいろ引かれると、手取りはいくらぐらいになるか。

田尻： 14万円ちょっとになる。

市長： 実家など頼るところがある人はいいが、身寄りがない人は大変だと思う。

市長： 地域おこし協力隊の任期終了後の起業支援として、市の助成金が100万円あるが、100万円で何をできるかだ。今会社を作るのにどのくらいのお金がかかるのか。

新美： 司法書士の手続き代など入れると30万円程度は必要だと思う。

市長： 3年後すぐ起業できるとは限らない。特に畜産のお二人にはいろんな支援制度もある。畜産振興監にも相談をしてほしい。

市長： 先輩隊員から新しい隊員に何か言いたいことはないか。

青木： 最近隊員同士の横のつながりが無い。最初の隊員は、高隈と吾平地区のコミュニティ協議会関係の仕事だったので、所管課が地域活力推進課のみだったこともあり、自分たちで月に一回集まる場を設けてもらっていた。そういう場を設けるには待っていても始まらないので、自分たちで提案してほしい。皆さんはミッション型でそれぞれ従事している仕事内容が違うから、誰かが取りまとめたほうがよい。みんなが立ち上げたいと思って、自発的にやらないと始まらない。

市長： 皆さんそれぞれ違う内容の仕事をしているが、隊員同士の繋がりが深まれば、取り組める事業も広がっていくと思うので、横の連携を密にとってほしい。最初の隊員はミッションが抽象的であったが、今の隊員はミッションがはっきりしているのでやりやすいと思う。与えられたミッションが自分の思いと違うということもあるかもしれない。それは仕事をする中で、おもしろくやってほしい。協力隊員が、おもしろくない仕事を我慢してやっても意味がない。自分の将来に向けてスキルをつけてほしい。

市長： 最初の隊員の方々はコンサル的な仕事で起業していくということだが、他の皆さんはどういう形で自立化を目指すのか。難しいところもあると思うが、たとえば繁昌さんのアウトドアの事業と木下さんの自転車の事業で連携するなど協力隊同士で協力し合えることもあると思う。

松本： 協力隊の活動とは関係ないが、各自治体の行事等のイベント周知がとりまわっていない。そこを鹿屋だけでもわかるようにした方がいいと思う。先日、地域づくりフォーラムに参加したが、もっと広報しないとったいない。

市長： 市民でもイベントを知りたい人は多い。ホームページ等で各イベント等がすぐわかるようなシステムが必要だと思う。

市長： 皆さんは個人でフェイスブックを行っているのか。

青木： 私と繁昌君はフェイスブックで高隈と吾平の情報発信を行っている。

市長： 地域おこし協力隊員として、がんばっている日常を公開するサイトがあってもいいと思う。そのようなものがあるのか。

事務局： 地域おこし協力隊のフェイスブックがあるが、初期隊員しか情報掲載の権限を持っていないので、今後どのようにしていくか隊員同士で話し合う予定である。

市長： 今、大隅半島の協力隊員同士による交流はあるのか。

青木： 全体ではないが、一部で行っている。一度そのような場を設けたいと思う。

市長： ほかの市町の協力隊を見て、行政と協力隊の関係でいい事例などがあれば教えていただきたい。

青木： まだ大隅の協力隊員は一年目の人が多く、若いこともあり、あまり聞かない。

新美： 長島町の協力隊と意見交換しているが、長島町は協力隊が企画したものを行政が予算化するというものである。良い面も悪い面もあると思う。

青木： 大隅はスタンダードな協力隊が多いと思う。

市長： 今大隅半島は何人くらいいるのか。

青木： 志布志市が9人 垂水市はいない。

木下： 錦江町は1人いる。

市長： 大隅の中でも意見交換すれば、今後起業するときに役に立つことがあるかもしれない。

市長： 先輩隊員から、隊員になってから困ったことなど何かないか。最初が肝心だから新しい協力隊員に教えてほしい。

繁昌： 都会から引っ越してきて、住み始めた貸家が雨漏りしていて、今もそこに住んでいる。大変なこともありながらも、その環境に慣れていくのも大切だと思う。不便なことも楽しみながらやるのが大事。

市長： 皆さんは、鹿屋は自然が豊かで食べ物がおいしいと言ってくれるが、ただで、飲み食いさせてもらったら、まずいという人はいない。そのあとその人がリピータになるかという、なかなかならない。だから、そういう意味では商品開発にしてもなんにしても厳しい評価が必要だと思う。仲間同士で作って仲間だけで評価するような閉鎖的なことをやっていたはいけない。

市長： ここで起業するには外からバイヤーを連れて来たり、外に売っていかないとはいけないが、その辺では可能性はあるというイメージか。

新美： 個人的に魅力があると思うのが、産地で採れたものを産地で加工できるということ。鹿屋だけで完結するだけでなく志布志などで採れた物を鹿屋で加工するなどもある。第1次加工、第2次加工までできればお金も落ちるし、やり方さえ間違わなければ、高い単価のまま売ることができる。現在、取り組んでいるヘダイについては、「ひらまつ」という24店舗あるフランス料理の会社があるが、そこはミシュランを計5つ取っており、客単価が4万から5万円の世界的なので、ある意味ヘダイの単価が2千円から3千円でも売れる。そこで使ってもらくと、築地での売りが良くなって、自然と単価が上がる。初めに築地に卸すとそうでもないのだけれど、順序を工夫してやっていると、高くで売れる。そういうのをトータルでやっていき、生産者の売上げが良くなればいいと思っている。

市長： ヘダイは養殖ではなく、外にいるのでは。数を確保するためには養殖することか。

新美： 養殖ではなく釣っている。

市長： 取り終われば終わりではないのか。

新美： うようよいると聞いている。また冷凍ができるので、ストックができる。鹿屋で1キロ200円だが加工を入れて最後に売るときは1,800円まで上がる。店や仲介者選びなど、上手く回せば生産者の方々の売上げが伸びる。

青木： 隊員1年目のころ家主が畜産を営んでいたのが競りを見学に行ったことがある。その当時は仔牛が40万円代だったのに、今は80万円代で落札すると聞いている。面白い商売だと思う。

市長： 平成 21 年頃が 30 万円代だから倍以上になっている。コストはそのころと変わらない。面白い商売だが、おもしろくなると予想して、10 年くらい前に始めていないとやっていけない。

市長： 現在鹿屋市への移住者は 26 名おり、高齢者から子育て世代まで様々な年代の方がいる。今年の 9 月には、東京から吾平町神野にも移住してくる予定である。仕事は IT 関係で奥さんは保育士とのこと。ネットワークが広いと聞いている。

以前、移住者との語ろう会を開催したが、その時移住者が言われていたのは、大事なものは家賃助成などの金銭的支援ではなく、移住先の住民の親切心や温かさと言っていた。我々は助成金や補助金で人の心を買おうとするがそうではないというのがよくわかった。補助事業メニューを考えるのは簡単だが、地域で温かく迎える仕組みづくりをどのように作るか考えるのは難しい。

市長： 隊員卒業後に何かをやろうするとき、自分で起業しなくても、ひょっとしたら周りから誘いや提案があるかもしれない。「店で働いてみませんか」とか、畜産はお金がかかるから、すぐ自立はできないと思うが、「50 頭預けるからやってみないか」とか、周りの人からの声掛けでチャンスがつかめることもある。そのような意味でも、皆さんも地域を大切に活動してほしい。

福元： 輝北のうわば公園のレストランが老朽化して取り壊すと聞いたのだが、よい厨房器具もあるので、調理できる場を残して利活用できないか。

市長： 具体的なことはまだ決まっていないが、将来的には壊さないといけなく思う。そのあとの活用は、輝北未来会議等で協議してほしい。

市長総括

悩みなどがあつたら遠慮なく相談していただきたい。隊員同士で定期的集まって、情報交換をしていただき、仕事がおもしろくないと続かないので、ぜひ楽しく仕事をやっていただき、自分の夢をかなえてほしい。